

## ■本市が抱える課題（分野別） ※(p○)は、資料3のページ数を示す。

### 関連計画や市民意識等、マクロ（都市全体）・ミクロ（地域別）の視点での主な課題（3つの観点）

① 人口	<p>【関連計画等(p2)】若い世代・子育て世代をはじめとした移住・定住の促進やまちなか居住、中心市街地だけでなく郊外のほかの地域においても誰もが生活しやすい環境づくりなどが課題</p> <p>【マクロ(p3)】他都市と比較して人口減少と少子高齢化が顕著、将来の人口規模や人口構造への対応が大きな課題</p> <p>【ミクロ(p4)】・中心市街地などでは、大幅な人口密度の低下が予測されているエリアがあり、<u>まちなかにぎわいや魅力、価値の低下</u>などが懸念されます。</p> <p>・郊外の住宅市街地では、低密度なエリアの拡大に伴い、<u>生活サービス施設の撤退</u>や公共交通の縮小などによる生活サービス水準の低下、<u>地域コミュニティの維持が困難</u>になることが懸念されます。</p>
② 土地利用	<p>【関連計画等(p6)】地形的な制約、<u>空き家等対策</u>や中心市街地における土地の高度利用などが課題</p> <p>【マクロ(p7)】急速な人口減少等により、老朽化した空き家の増加が見込まれ、効果的な<u>空き家対策</u>が課題</p> <p>【ミクロ(p8.9)】・手宮地域などの古くから市街地が形成されている地域において、<u>空き家の密集</u>が見られるなど、地域特性に応じた<u>空き家対策</u>が課題</p> <p>・市内全域において小規模な未利用宅地等が分布していますが、とりわけJ R小樽駅周辺の中心市街地などにおいては、<u>小規模な未利用宅地</u>や青空駐車場が<u>散在的に</u>分布し、<u>土地の高度利用</u>や<u>まちなかの連続性の確保</u>が課題</p>
③ 都市交通	<p>【関連計画等(p11)】持続可能な地域公共交通ネットワークの形成や拠点間交通ネットワークの確立、高齢者など誰もが<u>円滑に移動できるまちづくり</u>などが課題</p> <p>【マクロ(p12)】他都市と比較して利便性の高い公共交通網が整備されていることがうかがえますが、急速な人口減少等により、今後さらなる公共交通利用者の減少が見込まれ、<u>持続可能な地域公共交通網の形成</u>が課題</p> <p>【ミクロ(p13)】鉄道や路線バスの収支均衡が図られていない現状に加え、人口密度の低下が見込まれている地域においては、利用者の減少により、<u>地域公共交通の縮小</u>などの可能性もあり、「<u>地域の足</u>」の確保が課題</p>
④ 経済活動	<p>【関連計画等(p15)】本市の持つ強みを生かした産業振興による<u>にぎわいと雇用の創出</u>、北海道新幹線等の整備効果の<u>地域全体への波及</u>、中心市街地の活性化などが課題</p> <p>【マクロ(p16)】本市の持つ強みを生かした産業振興により、就業人口の減少が続く第1次産業や第2次産業にその経済効果を広げるなど、<u>地域経済全体としての活性化</u>が課題</p> <p>【ミクロ(p17)】中心市街地をはじめとして、今後も事業所の減少が予測され、地域経済の衰退などに伴う<u>企業の撤退</u>やこれに伴う<u>雇用の場の減少</u>が懸念されます。</p>
⑤ 財政	<p>【関連計画等(p19)】厳しい財政状況が見込まれる中で、<u>将来の人口や財政規模に見合った持続可能な行政運営</u>（公共施設等の維持更新費用抑制、資産の有効活用等）が課題</p> <p>【マクロ(p20)】公共施設等の更新費用や医療費の増加などにより、さらに厳しい財政状況が見込まれる中、公共施設等の最適化や行政サービスの効率化、健康増進による社会保障費の抑制などが課題</p>
⑥ 地価	<p>【マクロ(p22)】住居系・商業系地価は、道内同規模他都市と比較して同等もしくは高い水準にありますが、人口減少などの影響により、不動産需要が弱まりを見せる中、<u>都市全体における地価水準の維持・向上</u>が課題</p> <p>【ミクロ(p23)】中心市街地や都市機能が一定程度充実している地域などにおいては、<u>地価が上昇傾向</u>にある地点が多いものの、<u>郊外の住宅地</u>などにおいては、ほとんどが<u>下落傾向</u>にあり地価の維持が課題</p>
⑦ 災害	<p>【関連計画等(p25)】地形的特性から様々な災害が起こる可能性があり、災害による被害の最小化、強靱なまちづくりの計画的推進など、<u>防災・減災への取組</u>が課題</p> <p>【マクロ(p26)】急速に高齢化が進む中、平地が少なく<u>坂の多い地形的特性</u>を考慮し、避難場所等の確保など<u>地域の警戒避難体制の強化</u>を着実に進めることが必要。また、人口減少などにより、地域のつながりが弱まる傾向がある中、共助として、災害時における<u>地域の災害対応力の強化</u>が課題</p> <p>【ミクロ(p27)】近年、全国で想定を超える自然災害が激甚化・頻発化しており、市街地に甚大な被害を与えていることから、特に災害発生のおそれのある区域においては、<u>警戒避難体制の構築</u>が課題</p>
⑧ 都市機能	<p>【関連計画等(p29)】・中心市街地の活性化や公共施設等の都市機能の複数拠点への集約、子育て支援をはじめとする都市機能の配置を通じ、<u>身近な地域の拠点などにおける生活利便性の確保</u>のほか、<u>地域のつながりを維持するための拠点づくり</u>などが課題</p> <p>【マクロ(p30)】他都市と比較して、現状では高い生活サービス水準が確保されていますが、<u>急速に人口減少や高齢化が進む中</u>、これを維持していくことが課題</p> <p>【ミクロ(p31.32)】・人口密度の低下が予測されている郊外の住宅市街地などにおいては、経営が成り立たず撤退する病院や店舗などの増加が予測され、<u>身近な地域における生活利便性の確保</u>などが課題</p> <p>・J R小樽駅周辺の中心市街地や市役所の周辺においては、既存の商業施設や主要な公共施設などの都市機能を生かすとともに、<u>都市機能の更新・誘導による活力と魅力の維持・向上</u>が必要</p>
⑨ 都市施設	<p>【関連計画等(p34)】<u>人口規模に見合った施設規模の適正化</u>等、多様なニーズに対応した公園の整備・充実、除排雪などが課題</p> <p>【マクロ(p35)】道路は、市民生活や経済活動を支える重要な都市施設であり、今後さらに厳しい財政状況が見込まれる中、将来にわたり、年間を通じて<u>安全・安心な道路機能を確保</u>していくことが課題</p> <p>【ミクロ(p36)】急速に人口減少と少子高齢化が進む中、<u>公園</u>については、<u>利用状況等に応じた機能の再編・集約</u>、多様なニーズに対応した機能の充実が必要</p>

### 本市が抱える課題（分野別）

#### ①人口 (p5)

- ・日常生活圏における生活利便性や地域コミュニティ、まちなかにぎわい等を維持するため、一定のエリア内への居住の誘導・集約による人口密度の維持・確保が必要
- ・子育て世代や高齢者をはじめとして誰もが生活しやすい地域特性等に応じた住環境の維持・形成が必要

#### ②土地利用 (p10)

- ・老朽化した空き家や未利用宅地等の増加が見込まれ、地域特性に応じた効果的な空き家等対策が課題
- ・J R小樽駅周辺の中心市街地などにおいては、小規模な未利用宅地等が散在的に分布しており、土地の高度利用やまちなかの連続性の確保が課題

#### ③都市交通 (p14)

- ・拠点間交通ネットワークの確立をはじめとした持続可能な地域公共交通網の形成が課題
- ・円滑に移動できる交通環境の形成が必要

#### ④経済活動 (p18)

- ・本市の強みを生かした産業振興や北海道新幹線等の整備効果の波及などによる中心市街地をはじめとした地域経済全体の活性化が課題

#### ⑤財政 (p21)

- ・さらに厳しい財政状況が見込まれる中、公共施設等の最適化や行政サービスの効率化など、将来の人口や財政規模に見合った持続可能な行政運営を進めて行くことが必要

#### ⑥地価 (p24)

- ・人口減少などの影響により、不動産需要が弱まりを見せる中、都市全体の地価水準の維持・向上が課題

#### ⑦災害 (p28)

- ・地形的特性により、市内に土砂災害警戒区域などが多数存在していることから、地域の警戒避難体制や災害対応力の強化が課題

#### ⑧都市機能 (p33)

- ・急速に人口減少等が進む中、現状の生活利便性や地域のつながり等を維持するため、身近な地域の拠点等における生活サービス施設等の維持・集約が必要
- ・本市の中核的な拠点であるJ R小樽駅周辺の中心市街地や市役所の周辺においては、既存の商業施設や主要な公共施設などの都市機能を生かすとともに、都市機能の更新・誘導による活力と魅力の維持・向上が必要

#### ⑨都市施設 (p37)

- ・人口規模に見合った施設規模の適正化等、安全・安心な道路機能の確保などが課題
- ・公園については、利用状況等に応じた機能の再編・集約、多様なニーズに対応した機能の充実が必要